

タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3362		
科目名	国際地域研究 2 (中東・アフリカ)		
担当教員	高岡 豊		
対象学年	4年	開講学期	前期
曜日・時限	木 2		
講義室	1307	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け (開発能力)	■ D Pコード：学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 2－A [中東・アフリカ地域の特色を他地域との比較を通じて説明する] 異文化との交流の重要性を認識するとともに、特殊性の叙述に満足することなく、他の文化との比較を通じて中東・アフリカ地域の政治・社会の特色を説明することができる。 D P 4－I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択と分析を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック(CR)との関連 A1 グローバル感覚-20% A2 異文化適応-20% E1 学識・専門技能-20% I1 理解・分析と読解-20% I2 量的分析-10% I3 情報分析-10%		
教員の実務経験	2003年～2020年に、本邦唯一の中東を専門とする調査・研究機関である中東調査会に勤務し、アラブ諸国の政治・社会情勢や紛争・テロ対策に関する研究に従事しました。本講義では、第11回、13回、14回を中心に、実務経験から得た研究成果に基づく講義をします。		
成績ターゲット区分	■ 能力開発の目標ステージとの対応 3発展期～4定着期		
科目概要・キーワード	国際安全保障及び海外での危機管理を学ぶためには、それぞれの地域がおかれている状況や文化、歴史について知る必要があります。それぞれの地域における政治的、経済的、文化的状況や、それぞれが持つ宗教問題、民族問題、独立問題など特殊な事情について具体的に学ぶことにより、安全保障や危機管理に生かすことが可能となります。本講義では中東、アフリカ地域について学び、個々の受講生が関心を持つ問題を分析し、その結果を適切に表現できるようになることを目的とします。 授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れます。 ■ 紛争、テロリズム、イスラーム、移民・難民		
授業の趣旨	■ 副題 中東・アフリカ地域の戦争と平和 ■ 授業の目的 受講者が中東・アフリカのアラビア語圏の諸国の政治・社会・文化・宗教についての知識を習		

	得し、それを基にリスクとその解消の方途について考察する能力を涵養します。本講義では、中東・アフリカのアラビア語圏の諸国の政治・社会・文化・宗教についての基礎知識を習得し、それを基に各国ごと、或いは地域単位での国際関係や紛争の発生要因、リスクの発生の原因とその解消に向けた努力を説明する能力を涵養します。国や地域の基礎知識を列挙するのではなく、基礎知識に裏打ちされた国・地域の国際関係の趨勢の解明・リスク要因の特定・リスクを解消するための方途を考察し、説得的に表現する能力を身につけます。 ■授業のポイント 中東・アフリカのアラビア語圏の諸国の政情や紛争に関する通説や既存のイメージを再考し、通説・イメージが実態に即しているか否かについての考察を深めることを重視します。								
総合到達目標	■中東・アフリカのアラビア語圏の諸国の政治・社会・文化・宗教についての資料や先行研究を適切に参照・引用する能力を習得します。 ■資料や先行研究に基づいた論理的な分析をし、それを説得的な表現で文書化する能力を習得する。 ■中東・アフリカのアラビア語圏の諸国の形成の経緯や、国・地域が抱える問題について説明することができる（第2回、4回、6回、7回、10回）。 ■中東・アフリカのアラビア語圏の諸国における様々な紛争が発生したり激化したりする要因と、紛争を防止・沈静化する方途について説明することができる（第5回、8回、9回、12回）。 ■宗教・宗派・民族・部族などの様々な社会的集団と、政治的権益配分の単位として設定された宗教・宗派・民族・部族などの集団との違いを説明することができる（第4回）。								
成績評価方法	■期末レポートを課します（60%）：適用ルーブリック A1・A2・E1・I1・I2・I3 講義の内容に即した出題に対し、根拠を示した論理的な記述で回答ができているかを評価します。なお、リアクションペーパー（下記）を1回も提出しなかった者に対しては受験資格を認めません。 ■リアクションペーパー4回（40%）：適用ルーブリック A1・A2・E1・I1・I2・I3 理解した内容を論理的に表現できるかを評価します。								
履修条件	特にありません。								
履修上の注意点	現在の中東に関する基礎的な知識は、報道などを日常的に閲覧することを通じて予習してください。								
授業内容	中東・アフリカ諸国の成り立ち、紛争やテロ行為の発生要因と当事者について学びます。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 本講義の目的と概要、講義計画と成績評価についてを説明します。 ③予習（120分） シラバスを読んでおく。 ④復習（120分） 講義を理解する上で必要となる基礎知識を確認する。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 中東とは何か ②授業概要 中東とはいかなる地域を指すのか、地域を構成する諸国の成り立ちや、その政治・経済・社会・文化の特徴、各国や地域が抱える問題について講義します（A1、A2、E1）。 ③予習（120分） 中東地域と同地域の諸国について、各自が持つ知識に基づき論述する準備をする。 ④復習（120分） 講義の成果を踏まえて、中東地域・諸国の成り立ちや問題を説明できるようにする。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ 分析の視角と方法論 ②授業概要 調査・研究を行う上で必要な論理的な枠組みと方法論について講義します。教科書第3章と第4章の分析を基に、質的調査・量的調査の特徴について講義します（E1、I1、I2、I3）。 ③予習（120分） 因果関係を説明するとはどのようなことなのか、論述する準備をする。 ④復習（120分） 講義中で挙げた方法論について、各自が関心を持つ事例にどのように適用するのかについて考察する。 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 本講義の目的と概要、講義計画と成績評価についてを説明します。 ③予習（120分） シラバスを読んでおく。 ④復習（120分） 講義を理解する上で必要となる基礎知識を確認する。	2	①授業テーマ 中東とは何か ②授業概要 中東とはいかなる地域を指すのか、地域を構成する諸国の成り立ちや、その政治・経済・社会・文化の特徴、各国や地域が抱える問題について講義します（A1、A2、E1）。 ③予習（120分） 中東地域と同地域の諸国について、各自が持つ知識に基づき論述する準備をする。 ④復習（120分） 講義の成果を踏まえて、中東地域・諸国の成り立ちや問題を説明できるようにする。	3	①授業テーマ 分析の視角と方法論 ②授業概要 調査・研究を行う上で必要な論理的な枠組みと方法論について講義します。教科書第3章と第4章の分析を基に、質的調査・量的調査の特徴について講義します（E1、I1、I2、I3）。 ③予習（120分） 因果関係を説明するとはどのようなことなのか、論述する準備をする。 ④復習（120分） 講義中で挙げた方法論について、各自が関心を持つ事例にどのように適用するのかについて考察する。
回	内容								
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 本講義の目的と概要、講義計画と成績評価についてを説明します。 ③予習（120分） シラバスを読んでおく。 ④復習（120分） 講義を理解する上で必要となる基礎知識を確認する。								
2	①授業テーマ 中東とは何か ②授業概要 中東とはいかなる地域を指すのか、地域を構成する諸国の成り立ちや、その政治・経済・社会・文化の特徴、各国や地域が抱える問題について講義します（A1、A2、E1）。 ③予習（120分） 中東地域と同地域の諸国について、各自が持つ知識に基づき論述する準備をする。 ④復習（120分） 講義の成果を踏まえて、中東地域・諸国の成り立ちや問題を説明できるようにする。								
3	①授業テーマ 分析の視角と方法論 ②授業概要 調査・研究を行う上で必要な論理的な枠組みと方法論について講義します。教科書第3章と第4章の分析を基に、質的調査・量的調査の特徴について講義します（E1、I1、I2、I3）。 ③予習（120分） 因果関係を説明するとはどのようなことなのか、論述する準備をする。 ④復習（120分） 講義中で挙げた方法論について、各自が関心を持つ事例にどのように適用するのかについて考察する。								

4	①授業テーマ 中東諸国を構成する諸要素 ②授業概要 中東諸国を構成する、様々な宗教・宗派・民族・部族などの社会集団と、それらに沿って現れる政治的・社会的亀裂について講義します（A1、A2、E1）。 ③予習（120分） 中東諸国の宗教・宗派・民族について下調べする。 ④復習（120分） 講義で挙げた社会集団や亀裂以外の事例を挙げ、それについて説明できるようにする。
5	①授業テーマ 紛争はなぜ起こるのか ②授業概要 中東が紛争多発地域であるとの現状を踏まえ、紛争がなぜ発生するのかについて理論的見地から講義します（A1、A2、E1）。 ③予習（120分） 教科書第1章を参照の上、中東で発生した諸般の紛争の原因について考えを表明する準備をする。 ④復習（120分） 講義中で挙げた紛争の発生原因についての考え方を、説明できるようにする。
6	①授業テーマ アラブ・イスラエル紛争 ②授業概要 中東における主要な紛争の一つであるアラブ・イスラエル紛争の発生から現在までについて、紛争当事者の変遷という観点から講義します（A1、A2、E1）。 ③予習（120分） アラブ・イスラエル紛争の発生と現在までの展開を下調べする。 ④復習（120分） アラブ・イスラエル紛争の当事者の変遷を、中東地域や世界の政治情勢と関連付けて説明できるようにする。
7	①授業テーマ 「イスラーム復興」と中東の政治・社会・国際関係 ②授業概要 中東の政治情勢の中での「イスラーム復興」とそこから生まれた諸般の政治・社会運動について講義します（A1、A2、E1）。 ③予習（120分） 「イスラーム復興」とはどのような現象かについて説明できるよう予習しておく。 ④復習（120分） 講義中で挙げた諸般の運動とその特徴説明できるようにする。
8	①授業テーマ 「対テロ戦争」と中東 ②授業概要 中東における「対テロ戦争」の発生と展開について、テロリズムについての学術的考察に基づき講義します（A1、A2、E1、I1）。 ③予習（120分） 教科書の第2章の関連箇所を参照した上で、自身の意見を表明する準備をする。 ④復習（120分） テロリズムが流行する原因について学術的観点から説明できるようにする。
9	①授業テーマ 中東とイスラーム過激派 ②授業概要 中東の紛争や「対テロ戦争」の当事者の一つである、イスラーム過激派について政治学や社会学の知見に基づき講義します（A1、A2、E1）。 ③予習（120分） イスラーム過激派とは、どのような人々や組織を指す用語かについて、教科書の第1章を参照の上自身の意見を表明する準備をする。 ④復習（120分） イスラーム過激派とは何かを論理的に説明できるようにする。
10	①授業テーマ アラブの春と中東の政治・社会 ②授業概要 中東における政治変動であるアラブの春について、民主化と民主化の定着という観点から講義します（A1、A2、E1）。

	③予習（120分） 教科書第2章の関連箇所を参照した上で、アラブの春とはどのような現象かについて下調べする。 ④復習（120分） アラブの春を経験した各国の政情について民主化とその定着という観点から説明できるようにする。
11	①授業テーマ 移民・難民問題と中東 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、中東諸国が当事者となった移民・難民問題について講義します（A1、A2、E1）。具体的な事例としてはレバノン、シリア、トルコで実施した世論調査を取り上げます（I1、I2、I3）。 ③予習（120分） 移民・難民とはどのような人々を指すのか、何故人々は越境移動をするのかについて下調べし、自身の意見を表明する用意をする。 ④復習（120分） 移民・難民問題について、越境移動の諸要因を踏まえて説明できるようにする。
12	①授業テーマ 国際社会は中東の諸問題にいかに対応するか ②授業概要 中東諸国が当事者となる様々な問題に対し、国際社会がどのように対処するのかを国際関係学の観点から講義します（A1、A2、E1）。 ③予習（120分） 中東で発生している問題の具体例を挙げ、それに国際社会がどのように対応しているのかを表明する準備をする。 ④復習（120分） 国際関係において各国の振る舞いを説明する論理を踏まえ、中東が当事者となる国際問題への対応を説明できるようにする。
13	①授業テーマ 中東と報道 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、中東における報道機関の発達と、テロリズムと報道機関との関係について学術的観点から講義します（A1、A2、E3、I1、I3）。 ③予習（120分） 教科書第1章を参照の上、報道機関の機能や役割の具体例を挙げ、それについて考えを表明する準備をする。 ④復習（120分） 中東の代表的な報道機関と、それに関係する諸国の政策について説明できるようにする。
14	①授業テーマ 紛争の当事者としての非国家武装主体 ②授業概要 担当教員の実務経験を踏まえて、中東の紛争の当事者としての非国家武装主体について、その機能や役割を学術的観点から講義します（A1、A2、E1）。 ③予習（120分） 教科書第1章を参照の上、非国家武装主体の行動の特徴を説明する準備をする。 ④復習（120分） 現在の紛争の中での非国家武装主体の機能と役割を説明できるようにする。
15	①授業テーマ 講義の総括 ②授業概要 本講義の全般的な総括をします（A1、A2、E1）。 ③予習（120分） 1回～14回の講義について、質問点や議論すべき点を表明する準備をする。 ④復習（120分） 講義全体を復習し、期末の課題を提出するための準備をする。
関連科目	
教科書	
高岡豊 『「テロとの戦い」との闘い あるいはイスラーム過激派の変貌』東京外国語大学出版会、2023年3月刊行 ISBN978-4-910635-03-3	
参考書・参考URL	
高岡豊 『現代シリアの部族と政治・社会』三元社、2011年 ISBN978-4-88303-305-8 高岡豊、溝淵正季編著 『「アラブの春」以後のイスラーム主義運動』ミネルヴァ書房、2019	

	年 ISBN9784623082391 浜中新吾、青山弘之、高岡豊編著 『中東諸国民の国際秩序観』 晃洋書房、2020 年 ISBN9784771033405
連絡先・オフィスアワー	個別に照会してください。
研究比率	地域研究（40%）、中東の移民・難民（10%）、イスラーム主義（10%）、紛争発生メカニズム（20%）、テロリズム（20%）

